（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	KiZuNa池尻教室			
○保護者評価実施期間	2025年 1月 6日		～	2025年 1月 25日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	33	（回答者数）	22
○従業者評価実施期間	2025年 1月 6日		～	2025年 1月 25日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	9	（回答者数）	9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童指導員、保育士、児童福祉事業経験5年以上の職員に加え、心理士、言語聴覚士、理学療法士といった専門職員が常勤で療育を行なっている。	・専門職員については非常勤職員も積極的に配置し、常勤職員の公休日にも質が落ちないように工夫している。	・より感覚分野（前庭覚・固有覚・触覚）の専門性を活かしたプログラムを実施していけるように、研修や日々の会議等を行ない、専門性を高めていきたい。 ・放課後等デイサービスの児童は、児童発達支援の児童に比べ、専門的支援実施計画を作成している児童が少ないため、今後は積極的に計画書を作成し療育を行っていく。
2	・1クラス2-3名の小集団で療育を行なっているため、一人一人のお子さんの課題に沿って、専門的に支援を行なう事ができている。	・保護者からの依頼や相談を可能な限りプログラムに取り入れている。 ・可能な限り、年齢や課題の似た児童をクラス編成し、プログラムの中で、それぞれのお子さんが成長に繋がるように工夫している。	・児童発達支援および放課後等デイサービスの多機能型で実施しており、毎年新年度にクラスの変更があるため、早めのクラス編成を行うことで、お子さんの成長に繋がりやすいクラスをつくり、保護者の要望にもできるだけ応えていきたい。
3	・請求業務を外部委託することにより、その分職員が現場に集中できている。	・委託業者と都度連携を取ることで、請求業務に職員が無駄な時間を取られることのないように工夫している。	・業務ソフトを年度内に導入し、更なる業務効率を図ることで、療育の時間に充てていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・送迎を行なっていないため、保護者の仕事の都合や家庭の事情等で、通所を断念される方もいらっしゃる。	・送迎はないが、その分職員が現場に集中できていたり、保護者の方が活動の様子を見る事ができるため、より安心感を持ってお子様を預ける事ができる。	・本年4月より日曜日の運営も開始し、平日通所が難しいお子さんへは、日曜日の通所も呼びかけていく。 ・保護者の方々とのフィードバックをより丁寧に行なっていく事で、送迎がない事のデメリットを感じないよう工夫していく。 ・一人で通所しているお子さんに対しては、到着時と帰宅時の保護者への連絡を徹底し、より安心して通所頂けるよう意識していく。
2	・1クラス2-3名の児童に対して、職員が3-4名と手厚い療育を行なってはいるが、支援時間が1時間と短いため、できる事が限られてしまう。	・支援時間は1時間ではあるが、階段をのぼってきたり、前後の身支度等の時間を考慮すると、実質は45分程度の支援時間となってしまう。	・メインのプログラム実施時間は45分程度ですが、玄関に入った瞬間から帰るまですべて療育である意識を強く持って受け入れを行っていく。 ・短い時間でも満足して頂けるように、より専門性の高いプログラムを取り入れていく。 ・お子様の満足感も担保するために、楽しんで参加できる活動もバランスよく行なっていきたい。
3	・事業所内に階段があるため、事故に十分気を付けて受け入れを行なう必要がある。	・建物の構造的な問題が大きいが、階段がある事によって、お子様の入れ替わりに時間がかかってしまい、結果的に支援時間の減少に繋がってしまう。	・構造上の問題のため階段を排除する事は難しいが、社内研修等で安全管理を徹底し、事故が起きないよう引き続き気を付けていく。 ・プログラムの終了時間を徹底し、保護者の方へは通所時間を守っていただくお願いを今後も徹底していく。